

今週（9月26日から9月30日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

インターバンク市場は、先週からの流れを受け、週を通して軟調な展開となった。無担保コールO/N物は、引き続き邦銀業態からの調達を中心となる中、一部に積極的な資金調達を行う先も見られたが、大方の先は低位での調達となった。26日から29日までの加重平均レートは▲0.065%前後での推移となったものの、30日は、9月末日にあたり一時的にビッドを控える先が複数見られた事で、レート水準はやや低下する展開となった。

ターム物に関しては、足元のレート低下基調を反映し、ショートターム物を中心に▲0.07～▲0.06%程度で引き合いが散見された。

日銀当座預金残高は、週初に518兆円台で始まり、為替介入の影響やコロナオペの期落ちにより、週半ば以降は492～495兆円程度での推移となった。

引き続き、長期金利が0.25%近辺で推移する中、カレント3銘柄が対象となる指値オペに対し、29日までは連日応札が確認された。26日は852億円、27日は1,474億円、28日は2,481億円、29日は8,750億円の応札が見られた。また、27日には臨時の国債買入オペが2本実施された。オファー額は、残存期間5年超10年以下が1,500億円(落札額1,503億円)、残存期間10年超25年以下が1,000億円(落札額1,002億円)となった。

●レボ市場

今週のGC O/N物は、▲0.15～▲0.08%での推移となった。29日のT/Nは、9月末跨ぎとなり、一時的にレートが低下した事を受け、若干ボラタイルな推移となった。

SC取引の個別銘柄では、5年140～153回、10年350～367回、20年170～181回、30年65～75回、40年10～15回など、カレント近辺の銘柄にビッドの出入りが多く見られた。

●短国市場

今週の短国市場は、年末越えの担保ニーズが先行し、3Mゾーンに積極的な買いが見られた。30日に実施された3M物入札でも、前回に引き続き、堅調な買いニーズが見られた事から強めの結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットは、ショートカバーの動きも見られ、強含む展開となった。

26日に実施された短国買入オペは、前回と同額の1,000億円でオファーされ、全取利回り較差、平均利回り較差ともに+0.013%と弱めの結果となった。

●CP市場

今週のCP発行市場は、月末週にあたり複数の業態で大型発行が見られたものの、四半期末の有利子負債圧縮の影響が大きく、大幅な償還超のマーケットとなった。市場発行残高は、29日までは26兆円台後半～27兆円台後半での推移となったが、30日は四半期末要因から大幅に減少する見込みとなっている。

発行レートについては、先週に引き続き0%から若干のプラスと、横ばい圏での推移となっているが、3ヵ月超のロングターム物の案件などでは買いが入りにくく、目線を切り上げる動きも散見された。

27日にはCP等買入オペが事前予定通り4,000億円でオファーされた。結果は、按分レート0.002%、平均落札レート0.031%と前回（按分0.002%・平均0.005%）比で、按分は横ばい、平均は上昇となった。

●短期金融市場関連指標

	日経平均 (円)	新発10年物 国債利回り (%)	為替 (ドル/円中心相場)	無担保コールO/N (加重平均・%)	東京レボレート(翌日物・ T+1スタート・%)	日銀当座預金残高 (億円)
9/26 (月)	26,431.55	0.245	144.00	△ 0.063	△ 0.091	5,180,500
9/27 (火)	26,571.87	0.250	144.45	△ 0.069	△ 0.091	5,157,900
9/28 (水)	26,173.97	0.245	144.66	△ 0.068	△ 0.092	4,928,100
9/29 (木)	26,422.05	0.250	144.35	△ 0.066	△ 0.118	4,924,400
9/30 (金)	25,937.21	0.245	144.74	△ 0.073	△ 0.097	4,930,300

来週（10月3日から10月7日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
10/3 (月)	9月調査の日銀短観(概要及び要旨,日銀 8:50) 決定会合における主な意見(9月21・22日分 8:50)				9月のISM 製造業景況指数 8月の米建設支出
10/4 (火)	9月のマネタリーベース(日銀 8:50) 財政資金対民間収支前月実績/当月見込み(財務省 15:00) 9月の都区部消費者物価指数(CPI 総務省 8:30)	10Y 27,000億円 10/5発行	交付税借入 13,000億円 10/14借入		8月の米製造業新規受注・出荷・在庫
10/5 (水)	10月の日銀当座預金増減要因見込み(日銀 8:50)				9月のISM 非製造業景況指数 8月の米貿易収支
10/6 (木)		TB6M 40,000億円 10/11発行	流動性供給 5,000億円 10/7発行	エネルギー 対策借入 6,500億円 10/20借入	
10/7 (金)	9月のマネタリーベースと日本銀行の取引(日銀 8:50) 8月の毎月勤労統計調査速報(厚生労働省 8:30) 8月の全世帯家計調査(総務省 8:30) 8月の特定サービス産業動態統計速報(経済産業省 13:30) 8月の景気動向指数速報(内閣府 14:00)	TB3M 60,000億円 10/11発行			9月の米雇用統計 8月の米卸売売上高 8月の米消費者信用残高

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
10/3 (月)	400	▲ 29,500	▲ 29,100	国債買入 国債補完 CP買入		12,700	40,100	11,000	2Y発行▲28,000 償還10,800 TB3M発行▲56,000 償還56,000
10/4 (火)	1,000	▲ 38,000	▲ 37,000				0	▲ 37,000	消費税・法人税揚げ 年金保険料揚げ
10/5 (水)	0	▲ 27,000	▲ 27,000				0	▲ 27,000	10Y発行▲27,000
10/6 (木)	▲ 500	4,000	3,500				0	3,500	恩給
10/7 (金)	1,000	▲ 2,000	▲ 1,000				0	▲ 1,000	流動性供給発行▲5,000
週間合計	1,900	▲ 92,500	▲ 90,600	—	27,400	12,700	40,100	▲ 50,500	

10/3は日銀予想、10/4以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、9月末を通過した事で、一時的に調達を控えていた先が戻って来るものの、影響は限定的と思われる。レート水準は引き続き低位での推移が見込まれる。債券レポ市場は、参加者のスタンスに大きな変化がなければ、GCO/N物のレートは、▲0.10～▲0.08%程度の水準で推移することが見込まれる。短国市場は、10月6日に6M物、7日に3M物の入札実施が予定されている。また、10月4日に実施が予想される短国買入オペは、1,000億円程度が見込まれる。CP市場は、期明けの発行で案件がどの程度膨らむか注目される。

主要なイベントは、国内では、3日に9月調査の日銀短観、海外では、3日に9月のISM 製造業景況指数、5日に9月のISM 非製造業景況指数、7日に9月の米雇用統計などの発表が予定されている。

◆本資料は信頼できると思われる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。
◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目論見書をよくお読みください。